

お元気ですか？

ogenkidesuka

第86号

公立富岡総合
病院ニュース

- 難聴について
- 七日市病院の紹介
- 職場紹介 4B病棟
- 高気圧酸素治療とは
- PET/CT健診のご案内
- 研修医の紹介
- 地域医療連携だより



「ペレセウス2重星団」撮影者：佐藤 尚文

夏の銀河、ペルセウス座に浮かぶ星々の大集団です。それぞれ数千の星からなり双眼鏡で見ると宝石を撒き散らしたように煌めく姿が圧巻です。夜10時頃、北北東の空、カシオペア座の下方で夜が更けるほど見やすくなります。

発行

富岡地域医療企業団

公立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡2073-1

☎ 0274-63-2111 🏠 0274-64-1406

✉ tomihp@mail.gunma.med.or.jp

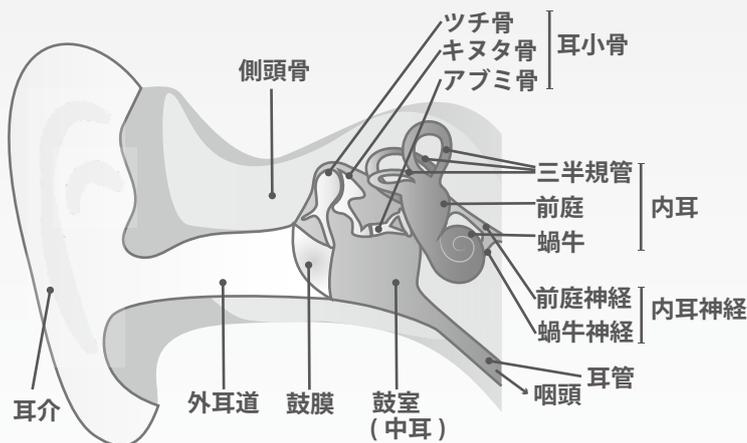
🌐 <http://www.tomioka-hosp.jp>



難聴について

耳鼻咽喉科 櫻井みずき

【耳の構造】



会話はメールやSNSが発達した現代においても、とても大事なコミュニケーション手段です。そして、それを支える重要な感覚の一つが聴覚です。

例えば、生まれてきたときからの先天性難聴を放置すると、言語の発達はもちろん、社会性などの発達まで遅れてしまいます。

そのくらい聴力というのは我々の暮らしのなかで重要な役割を担っています。

具体的に聞こえのしくみとは、外耳(音を集めて鼓膜まで伝える役割)、疾患・耳垢がたまっている、外耳炎、外耳道腫瘍など)、中耳(外耳から伝わった音を増幅する疾患・急性・滲出性・真珠腫性中耳炎など)、内耳(音の振動を電気信号に変換する疾患・突発性難聴、メニエール病、音響外傷など)、さらに中枢の蝸牛神経の脳皮質の障害、心因性など、これのいずれかが障害され、聞きにくい状態のことを「難聴」と言います。一言に「難聴」といっても原因・治療法・予後は多岐にわたる奥深いものです。

とくに病気や外傷などの原因がなくとも、加齢に伴い音を感じする有毛細胞が減ることで難聴をきたします。はやい方だと40代から衰えははじまります。

聴力を守るために、鼻を強くかまない、耳かきをしない、イヤホンなどで大きな音を聞かない、ライブやパチンコなどでの大音量の音響刺激を避ける、音がうるさい仕事に従事する場合は耳栓を使用

するなどが大事です。

また老化を防ぐために、基本的なことにはなりますが、規則正しい生活リズム、バランスの良い食事、適度な運動を意識しましょう。

また補聴器に対して抵抗感の強い方もいらっしゃると思いますが、眼鏡と同じく補聴器は日常生活しやすくするためのひとつの手段です。難聴で日常生活が困るようになったら使用する良い目安になりますので、お近くの耳鼻咽喉科でご相談ください。



高気圧酸素治療とは

臨床工学技士 金子 千里

高気圧酸素治療とは、大気圧よりも高い気圧環境のタンクの中で、酸素吸入をすることにより血液中に大量の酸素を溶解させ、各種の低酸素症状を改善する治療法です。

体内には2種類の酸素があります。それは結合型酸素と溶解型酸素です。

結合型酸素はその名の通り、血液中のヘモグロビンと結びつく酸素です。結合型酸素はヘモグロビンと結合しているために、ヘモグロビンの量を超えて運ばれることはありません。

一方溶解型酸素とは、血液中にそのまま溶けている酸素のため、ヘモグロビンの量には依存しません。つまり溶解型酸素を体内に多く取り入れることが大切なのですが、溶解型酸素は通常の呼吸だけでは非常に少なく酸素吸入だけでは増えません。

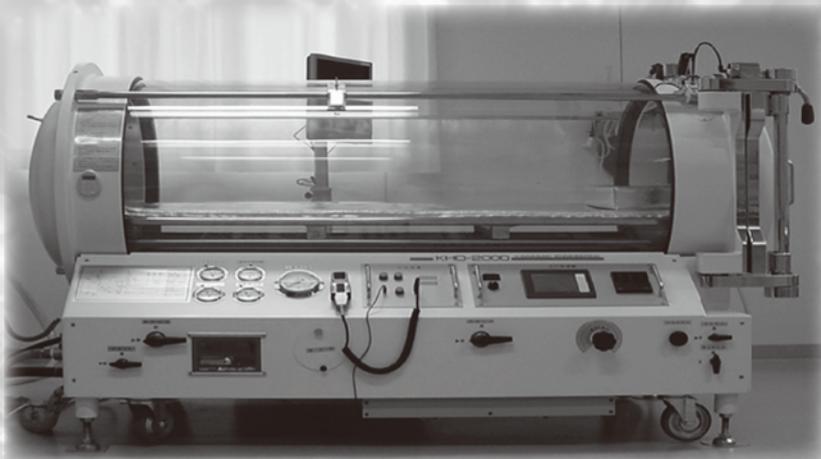
高気圧酸素治療はヘンリーの法則にもとづき、溶解型酸素を増やします。ヘンリーの法則とは【気体が液体に溶解する量は、その気体の圧力に比例する】という法則です。高気圧酸素治療は2気圧の高気圧環境で、100%の酸素を吸入することができます。

当院では、第1種装置(1人用)を使用しています。疾患にもよりますが、治療時間は1回約90分、治療回数は1日1回とし、患者様の状態で主治医が必要な回数を判断します。

適応となる疾患は、一酸化炭素中毒、減圧症、突発性難聴、イレウス、放射性膀胱炎その他様々な疾患に効果があります。

高気圧酸素治療と酸素カプセルの違いは、酸素カプセルだと21%の酸素で1.3気圧まで加圧していきます。この場合、体内に取り込まれる溶解型酸素の量は、通常の大気圧下での溶解型酸素の1.5倍です。

しかし、高気圧酸素治療では、約100%の酸素吸入で2気圧まで加圧していきます。そのため、体内に取り込まれる溶解型酸素の量は14倍になります。高気圧酸素治療は、薬事法で既定された医療機器であり、医療目的に使用されます。当院では厚労省が定める適応疾患のみ治療を行っています。



HBO装置



公立七日市病院

患者支援サービス課 佐俣 雅和

公立七日市病院は公立富岡総合病院の西およそ2キロに位置する病院です。江戸時代加賀百万石の大名前田利家の5男前田利孝が七日市藩を立藩し、その領地内に病院が建てられたことから命名されました。他地域の方には“七日市”と名乗るだけでは、富岡市をイメージしにくいようですが地元には馴染みの地名です。

当院は、169床の回復期病院（回復期リハビリテーション病棟57床、一般病床55床、地域包括ケア病棟57床）です。回復期リハビリテーション病棟では救急医療を脱した脳卒中や骨折、治療の為にリハビリテーションが必要な患者さんに対応します。その他の病棟では、肺炎や心不全、消化器症状などの内科疾患を中心に受入れています。特に老年期専門の病院というわけではありませんが、当地域では高齢化が他よりも進んで、高齢者の入院が多くなっています。

そのため、患者さんが安心して生活できるようにあらゆる職種がチームになり入院初期から退院を見据えた支援をしています。例えば、麻痺により入院前と同じ状態で自宅に帰ることが難しい場合は、医療ソーシャルワーカーが利用できる制度を紹介するなどして、サービスが開始できる状態まで手伝います。また、退院後に服薬や処置といった継続するべき医療が必要なときには、退院支援チームの看護師が資料を使うなどして、わかりやすく療養指導をしています。特に生活の場である自宅の動きやすさは重要なので、住宅の環境を配慮する必要があるとあれば、患者さんを普段から担当しているリハビリテーションのスタッフが自宅訪問し、家屋調査を実施し手すりの設置や段差の解消を提案、助言しています。

近年は、在宅療養支援病院として併設する訪問看護ステーションと協力して、時にはケアマネジャーや地域の診療所とやり取りしながら在宅医療に力を入れ、退院した後も自宅で安心して生活できる仕組みも整えています。この富岡甘楽地域において、皆さんが安心して生活できるよう、あらゆる場面で支援できるようこれからも取組んで参ります。



笑顔でむかえる 健やかな明日のために PET/CT健診のご案内

PET/CT検査は、がん細胞の活動状態を知ることができるPET検査と形態を見ることができるCT検査を同時に撮影する、一歩進んだがんの画像診断法です。検査による痛みはほとんどなく、一度に全身の検査ができます。

費用

100,000円(税込) ※令和元年7月1日現在
富岡市・甘楽町にお住まいの方へ
割引制度があり50,000円で健診できますので、各市町の窓口へお問い合わせください。

健診内容

- PET/CT検査、超音波検査
(肝臓・胆のう・膵臓・腎臓・脾臓・甲状腺)
- 腫瘍マーカー(CEA・CA19-9)
- 肺がんマーカー(シフラ・ProGRP・CEA)
- 前立腺がんマーカー(PSA) *男性の方
- 卵巣がんマーカー(CA125) *女性の方



検査のながれ



※PET/CT検査はがんの発見に非常に優れた検査ですが、万能ではありません。使用する薬剤が尿として排出されるため腎臓がんや膀胱がんなどは発見しにくいといわれています。また、早期胃がんや小さすぎるがんなど進行の度合いや細胞の種類によっても発見しにくいがんがあります。消化管のがんに関しては内視鏡検査(胃カメラ)を併用していただくことをおすすめします。

**PET/CT健診の他に下記コースを用意しています。
ぜひ一度ご自身の健康管理やご家族の為に受けてみませんか。**

日帰りドック(半日コース)
39,960円(税込)

身体計測、内科診察、検便、検尿、血圧測定、血液検査、胸部X線、眼科検査、聴力検査、胃透視、肺機能検査、心電図、腹部超音波、PSA(前立腺癌)検査(50歳以上男性)

1泊2日ドック
66,960円(税込)

身体計測、内科診察、検便、検尿、血圧測定、血液検査、胸部X線、眼科検査、聴力検査、肺機能検査、心電図、腹部超音波、PSA(前立腺癌)検査(男性)、血糖検査、歯科検査、腫瘍マーカー検査、子宮頸がん検査(女性)、マンモグラフィ(女性)、喀痰検査、胃カメラ(経鼻)、骨密度、肺CT検査(低線量)、肝炎(HCV)検査

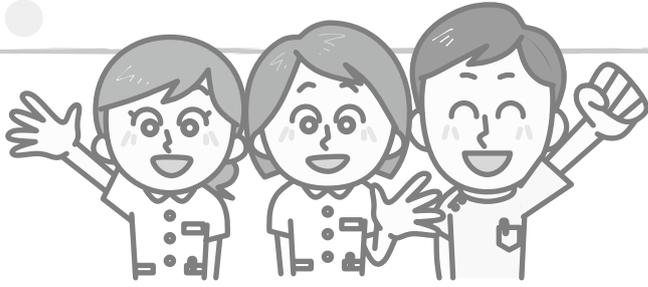
脳ドック
(診察と撮影 撮影時間は30分)
32,240円(税込)

MRIとMRAによる脳と脳血管の検査です。クモ膜下出血の予防、脳梗塞の早期発見と、これらの進行によって引き起される痴呆の予防が3大テーマです。

お申し込み方法

- ◎すべてのコースは完全予約制となっていますので、事前のお申し込みが必要です。
- ◎お電話または健診センターまで直接お越しください。

【問い合わせ先】 公立富岡総合病院 TEL:0274-63-2111 健診センター



職場紹介 4B病棟

4B病棟は、昨年の10月から地域包括ケア病棟となりました。病床数45床、スタッフは看護師26名、看護補助者2名で構成されています。地域包括ケア病棟は、一般病棟で治療が終了した患者さんが、スムーズに退院できるように、治療と生活の場の橋渡しをする病棟です。ですから、疾患も年齢も色々な患者さんがいます。今までは内科消化器科の病棟でしたが、少しずつ外科や整形外科の患者さんも増えてきました。スタッフは日々、4B病棟での経験を生かしつつ、他病棟や手術室の経験のあるスタッフからは、それぞれの得意分野を学び合っています。退院支援をするにあたっては、患者さんやご家族と、今後の事を一緒に考えて行くことが大切です。毎日のカンファレンスや、週1回のソーシャルワーカーとの退院支援カンファレンス、リハビリカンファレンスを通じて、その人がその人らしく、生活できるような援助を心がけています。

4B病棟のスタッフは、1人1人の思いや考えを丁寧に聴ける力があると思います。そして、みんな明るくチームワークがとても良いです。まるで高校生の部活動のようにお互い声を掛け合い、医師、看護師、リハビリスタッフや薬剤師、ソーシャルワーカーとも協力し合いながら、チームが一つになって、患者さんが「その人らしく生きる」為に、看護や支援を行っています。



研修医の紹介

研修医2年目の栗原昌孝と申します。昨年からは富岡総合病院で研修をさせていただいています。前橋市出身で大学は東京の東邦大学です。釣りを趣味にしています。富岡での生活は一年が過ぎだいが慣れてきましたが医師としてはまだまだ足りない部分はたくさんあることは自覚しております。毎日が勉強でありこれからたくさん経験を積んでお世話になっている先生や病院、患者さんのために恩返しが出来よう日々精進していきたいです。 栗原 昌孝



はいさい。研修医1年目の小南次郎と申します。小南は「コナン」ではなくて「コミナミ」と読みます。沖縄の琉球大学の出身です。生まれは愛知です。大学時代は三段跳びという非常にマイナーな競技をしていました。まだ医師として働き始めて毎日が勉強です。先生に教えていただくことも多いですが、患者さんの体から学ぶことも非常に多いです。富岡で一人前の医師として働けるように精一杯努力します。よろしくお願いたします。 小南 次郎



研修医2年目の杉野陽彦と申します。昨年からは富岡総合病院で研修をさせていただいています。出身大学は群馬大学で、将棋を趣味にしています。一年がたち、部分的ではありますが、様々なことができるようになりました。しかし、まだまだ見えていないことが多く、必要なことが抜けていたり、逆に余分なことをしていたりで周囲にフォローしてもらいなんとかやっています。残りの研修生活はわずかですが、有意義なものになるよう頑張ります。 杉野 陽彦

皆さんこんにちは。研修医1年目の木村有希と申します。出身は群馬県のお隣長野県です。自然に囲まれていると安心します。富岡総合病院の温かい雰囲気に惹かれて今年の春から研修させて頂いています。まだまだ土地にも病院にも不慣れではありますが、富岡の魅力に沢山触れて2年間の研修でお役に立てるよう誠心誠意努力していきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願い致します。 木村 有希



研修医一年目の片平雄大と申します。前橋市出身です。学生時代を海の近くで過ごし、ウインドサーフィンが趣味でした。この度愛する故郷であるこの海なし県に帰って来たので、新しい趣味を模索しているところです。医師になってまだ間もなく、半人前にも満たない私ですが、できる限り早く成長し、富岡市の医療に少しでも貢献できるように精一杯努力していく所存です。どうぞよろしくお願いたします。 片平 雄大



研修医2年目の野口千菜津です。昨年に引き続き富岡総合病院で研修させて頂いています。昨年はスタッフの方々をはじめ、患者さんに温かく見守っていただき、とても実りある一年でした。日々過ごすたびに課題が見つかるため、まだまだ勉強中の身です。2年目となりましたが未熟で至らない事があるかと思ひます。今年も去年のやる気を忘れず精一杯努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。 野口 千菜津



地域医療連携だより

富岡市甘楽郡在宅連携セミナーフォローUP研修が開催されました。

6月10日(月)富岡市甘楽郡医師会(かぶら在宅療養ネットワークセンター)と薬剤師会共催によるフォローUP研修が、当院を会場に開催されました。地域診療所の先生方や、訪問看護師、薬剤師、ケアマネージャーなど大勢の方が参加されました。当院からも医師をはじめ各職種から参加させていただき、賑やかな会場となりました。

基調講演では、当院における化学療法実施の統計を紹介、使用される薬剤とその副作用などについて説明がありました。また特別講演では、癌疾患に限らず呼吸不全、心不全、神経難病等への苦痛症状に対しても、緩和ケアは不可欠であるとお話がありました。苦痛の段階に応じ、具体的に鎮痛薬の選択方法や注意点など説明いただき、宮崎先生が冒頭で「超入門」とおっしゃったように、現場に活かすための充実した研修会となりました。

- ◎開会の挨拶… 富岡市甘楽郡医師会会長
大竹外科胃腸科 大竹雄二先生
- ◎座長…………… 泌尿器科診療部長 塩野昭彦先生
- ◎基調講演…… 「当院におけるがん化学療法の実際」
がん薬物療法認定薬剤師 齋田和江先生
- ◎特別講演…… 「緩和ケアに鎮痛薬をどう使うのか?(超入門)」
～アセトアミノフェンからオピオイド・鎮痛補助薬まで～
副院長 宮崎増美先生
- ◎閉会の挨拶… 富岡地域医療企業団 企業長 佐藤尚文先生



かぶら在宅療養ネットワークセンターのご紹介

富岡市甘楽郡医師会の中には、在宅医療介護連携拠点の窓口として、同センター(通称かぶらネット)が設置されています。医療と介護の両面からサポートの必要な高齢者が増えていく中で、かぶらネットでは、切れ目のないサービス体制構築の推進を支援しています。

当企業団でも地域医療に尽力すべく、引き続き連携をはかりたいと考えております。

かぶら在宅療養ネットワークセンター 連絡先:0274-67-5566

お問い合わせ先

公立富岡総合病院 患者支援係(がん相談支援センター)

TEL.0274-63-2111 FAX.0274-64-1406

E-mail msw2005@tomiokahosp.jp

